

2021年8月22日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒38番（旧23番）

『代々に誉むべし』

聖書⇒詩編68:20節

『主をたたえよ／日々、わたしたちを担い、救われる神を。』

礼拝讃美歌⇒14番（旧231番）

『天地の御神をば』

聖書⇒詩編121編（交読）

『目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。

わたしの助けは来る／天地を造られた主のもとから。

どうか、主があなたを助けて／足がよろめかないようにし／まどろむことなく見守ってくださるように。

見よ、イスラエルを見守る方は／まどろむことなく、眠ることもない。

主はあなたを見守る方／あなたを覆う陰、あなたの右にいます方。

昼、太陽はあなたを撃つことがなく／夜、月もあなたを撃つことがない。

主がすべての災いを遠ざけて／あなたを見守り／あなたの魂を見守ってくださるように。

あなたの出で立つのも帰るのも／主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。』

礼拝讃美歌⇒313番（旧84番）

『主に頼る者は』

《パン裂き》

聖書⇒ルカによる福音書22:14~20節

『時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。言っておくが、神の国で過越が成し遂げられるまで、わたしは決してこの過越の食事をとることはない。」そして、イエスは杯を取り上げ、感謝の祈りを唱えてから言われた。「これを取り、互いに回して飲みなさい。言っておくが、神の国が来るまで、わたしは今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」食

事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。』

礼拝讃美歌⇒14 番 (旧 231 番)

『天地の御神をば』

《建徳》

聖書⇒創世記 41:46~52 節

『ヨセフは、エジプトの王ファラオの前に立ったとき三十歳であった。ヨセフはファラオの前をたつて、エジプト全国を巡回した。豊作の七年の間、大地は豊かな実りに満ち溢れた。ヨセフはその七年の間に、エジプトの国中の食糧をできるかぎり集め、その食糧を町々に蓄えさせた。町の周囲の畑にできた食糧を、その町の中に蓄えさせたのである。ヨセフは、海辺の砂ほども多くの穀物を蓄え、ついに量りきれなくなったので、量るのをやめた。飢饉の年がやって来る前に、ヨセフに二人の息子が生まれた。この子供を産んだのは、オンの祭司ポティ・フェラの娘アセナトである。ヨセフは長男をマナセ（忘れさせる）と名付けて言った。「神が、わたしの苦勞と父の家のことをすべて忘れさせてくださった。」また、次男をエフライム（増やす）と名付けて言った。「神は、悩みの地で、わたしに子孫を増やしてくださいました。』

礼拝讃美歌⇒105 番 (旧 231 番)

『神の御子イエスよ』

《建徳要旨》

「忘れたい過去～記憶のいやし～」

創世記 41 章 46～52 節:ヨセフは長男をマナセ（忘れさせる）と名付けて言った。飢饉という困難な時代が来る前に、ヨセフは2人の子に恵まれます。長男をマナセと名付け、「神が、私の苦勞と父の家のことをすべて忘れさせてくださった」と言いました。忌まわしい過去は忘れたい、しかし、忘れられない。酷いことをされた心の傷はなかなか癒えない。自分の力だけでは決してできないから「神が、忘れさせてくださった」と言ったのです。ここで何故?と思うことは、トップの地位にまで引き上げられた後も、ヨセフが故郷にその連絡をしていないことです。「お父さん、私は元気です」と便りを出せそうなものです。ところが、ヨセフは連絡を一切していません。聡明なヨセフは自分が既に死んだことになっている、と分かっていたからでしょう。

英語で忘れる=Forget は、ゆるす=Forgiveに通じる。忘れるは、兄たちを赦すこと、ヨセフであってもすぐには兄たちを赦せなかったでしょうが、忘れようとし、受けた心の傷をそっと覆い隠そうとしました。忌まわしい過去から解放され、心の傷を癒されたのが子どもの誕生の時でした。マナセと名付

けた心の中を探ってみました。創世記5章のエノクが、神と共に歩み始めたのは、メトシェラが生まれた時からです。

「記憶のいやし」という言葉があります。いじめや虐待などを受けて心の傷を負い、その記憶に苦しむのです。記憶のいやしは傷を受けたその時の記憶に戻り、そこにイエス様をお迎えして癒していただくのです。次男の名がエフライム（増える）なのは、過去を乗り越えた人は、豊かな祝福が増えることを示唆します。

詩編 139 編 24 節：迷いの道＝傷ついた道→とこしえの道（イエス・キリスト）に導いて下さい、との祈りです。ヨセフはイエス・キリストの型でありつつ、主イエスそのものでもあることが更に分かって行きます。

（新共同訳）御覧ください わたしの内に迷いの道があるかどうかを。どうか、わたしをとこしえの道に導いてください。

（2017 新改訳）・私のうちに、傷のついた道があるかないかを見て、私をとこしえの道に導いてください。